

ISSN 2186 – 3989

中国人留学生における日本留学への意識調査  
－瀋陽航空航天大学と大連外国語大学を対象に比較分析－

森田 聡

A Survey of Chinese Students' willing Studying abroad in Japan  
－ Analyzing Targets from Shenyang Aerospace University and Dalian  
University of Foreign Languages －

Satoshi Morita

北 陸 大 学 紀 要  
第49号(2020年9月)抜刷

# 中国人留学生における日本留学への意識調査 — 瀋陽航空航天大学と大連外国語大学を対象に比較分析 —

森田 聡\*

A Survey of Chinese Students' willing Studying abroad in Japan  
— Analyzing Targets from Shenyang Aerospace University and Dalian  
University of Foreign Languages —

Satoshi Morita\*

*Received June 24, 2020*

*Accepted July 31, 2020*

## Abstract

There are many international students in the Faculty of Economics and Business Administration, Hokuriku University. And a lot of them interested in going to graduate school. In this paper, I conducted a questionnaire survey for students from two affiliated schools of Hokuriku University in China. Based on the results, I will try to analyze the attitude of international students who wish to study in Japan.

For students, there is always a difference between the final results and the envisage when they were at Chinese University. Perhaps it can be inferred that the situation changed after actually studying abroad. Since the members of our faculty do not usually have a good understanding of international students' s purpose, hopes, and current situation, it is necessary to have a consciousness investigation to recognize that there is a difference in the consciousness of the international students and the faculty.

The result of the questionnaire shows that there is a problem with school fees. Most students feel that their tuition is high. At our University, we have a scholarship system for international students, but of course, not all of them can get it. When they study at our university, half of the fees will be exempted, but they feel that even half of the tuition is high. Also, as long as they come to study at our university, it should be our issue to respond to their needs such as the environment of study and the support of going to graduate school or finding employment. The challenge for the university is how to meet the needs of international students with limited personnel and resources. There is also an issue regarding the delay of the graduation year. The new semester starts in September in China, but April in Japan. Leaves a half-year gap. Making effective use of that period, students who are not familiar with the Japanese language are recommended to enter the special course for foreign students

---

\*北陸大学経済経営学部 Faculty of Economics and Management, Hokuriku University

half a year early, and then enroll in the faculty in April half a year later. Finally, to ensure the number of enrollments, it is important to support students with their entrance exams for graduate school. The number of students who went on to graduate school is a grade for the university to attract students from China. For affiliated schools, there is always a close connection between seniors and juniors students.

The situation of senior students currently studying at our university greatly influences the hopes of juniors in China. So what we are doing now is linked to the entrance of international students in the next year.

Keyword : consciousness investigation, study abroad, graduate school

## 1 はじめに

北陸大学経済経営学部（以下、本学部）では、編入留学生が多く、大学院進学を希望する留学生が増加している。本稿では特に筆者が所属する経済経営学部では、本校が提携している中国の提携校 2 校において、主に、留学前の学生を対象にアンケート意識調査を行った。その結果をもとに日本へ留学を希望する留学生の意識調査から分析することを試みる。

調査の必要性和本学の現状について、本学部の留学生の大学院修士課程入学希望者は年々増加している。そして、2+2 制度として、3 年次に毎年約 150 名前後の留学生を受け入れ、その支援を行っている。本学部では、1 年次に 300 名の日本人の在籍者がいるため、3 年次では留学生 150 名が加わり 450 名（日本人 300 名に留学生 150 名）という数になる。タイや韓国の留学生が存在するものの少数であり、主に中国の留学生が多く在籍する。その中国人留学生は、すべて本校の提携校のみの受け入れを行っている。その他の留学生は別の入試形態で入学することになる。本校の特徴として、2+2 制度を採用しており、中国での学士と日本での学士の両方取得できるダブルディグリー制となっている。大学全体では、入学当初の希望では、およそ 8 割の学生が卒業後の進路に大学院進学を希望している。ただし、その後、本学部で授業を進めていくうちに専門の相違や日本語能力試験（日本語 1 級試験）が取得できない、専門に関して大学院で要求されるレベルに到達しない、大学院の学費が高いなどの理由で大学院進学希望者は減少する。毎年、最終的に入学者に占める 40%が大学院に進学している。当初、中国の大学で在籍していたときの希望と最終的な出口の結果の相違がある。恐らく、中国での理想と実際に留学した後で状況が変化してきたと推測できる。本学部の教員はどのような目的や希望・現状で留学を考えているかの実態をよく把握していないため、今回の意識調査によって本学に入学前の意識調査の分析結果から、大学との意識のずれを本学部側が認識する必要があると考える。入学前の留学生の意識と出口結果の差異は、本学と提携校の関係維持にマイナスの影響を及ぼすからである。大学経営の一つの在り方として、留学生の受け入れ態勢の構築は経営基盤を支える重要な役割を担うと考える。よって、出口の差異の大きさは、次の編入留学生確保に影響を与えると推測できるからである。そのため、留学の目的やその後の進路について留学生の意識調査を行うことによって、留学目的のミスマッチが無いようにする必要があると考ええる。本学の受け入れ態勢の構築を行うことによって、可能な限りのミスマッチは避けられ、提携校の関係を維持することを目的とする。

今回対象とした大学は、本学と提携校である瀋陽航空航天大学（2019 年 3 月 11 日にアンケート実施）と大連外国語大学（2019 年 3 月 13 日にアンケート実施）の両大学にて行ったアンケートのデータを分析し、両大学の比較分析も試みる。この 2 つの大学を比較する理由は、比較的近くに立地するにもかかわらず、大連は日系企業が多く存在し、親日の街として知られる。また、瀋陽は瀋陽軍区であり、現在でも日本に対する傍受活動の拠点としても存在している一

面を持つ。この違いが留学生の意識の差に違いが生じるのかについても明らかにしたいからである。

## 2 先行研究

留学生を調査した方萍、他（2016）では、留学生の意識調査を行った。そのアンケート手法を応用した。方らによれば、南京工業大学の調査結果から、卒業後は、日系企業や日本企業への就職に 74%希望し、進学より就職の志向が見られている。日本文化への興味や大学への期待として、語学力向上のプログラムの期待が挙げられた。また結論の一つとして、日本の留学体制が整っていないことを示唆し、日本の留学プログラムの改善案を提出している。方の研究では、就職を希望する留学生が多いことから、留学生の支援の中身は就職支援ということになる。筆者の実施した提携校での将来の希望の多くは大学院進学である。そこから若干、提携校の地域特性や大学特性の事情があるように推測できる。本学では、中国の全国国内統一試験における、いわゆる一本線（二本線三本線とレベル差がある。）といわれるランキングの大学の提携校が多い（北京語言大学・西安外国語大学・大連外国語大学等）。中国人留学生が日本に留学を希望する理由の一つとして、漢字圏の国であり、読み方がわからなくても漢字の内容で授業がなんとなく理解できること。主に、提携校からの留学であるため、先輩・後輩・同期が留学するため、安心感があること。本学では、他の大学に比べ留学生の受け入れ数が多く、留学生用のカリキュラムが存在し、留学生専用の科目、留学生専用のゼミがあり、教員や事務員も中国人を採用していることから、安心できる留学先となっていると思われる。

稲井（2012）によれば、留学生 30 万人計画による学生を高度外国人材と位置づけ就職支援を行っているが、実態は、就職率は 3 割程度であり、しかも数年内に離職するケースが多く、企業と留学生とのギャップが存在すると述べている。

寺倉（2011）によれば、中国人受け入れの歴史に触れ、日中国交正常化後の本格的受け入れ時の状況について、受け入れ政策の観点から述べており、国際移民政策と捉え日本の整備が必要であると述べている。

浅井（2018）は、大学院希望者の受験準備の状況の課題を提出しており、留学生が大学院受験を行う困難さを指摘している。本学においても同じ事案が発生しているが、留学生の大学院修士課程入学希望者は年々増加している。そのためこの課題を解決する意義は大きいと考える。

稲井（2012）は、留学生の歴史に触れ、当初は就職目的であった留学生の実態が、最近では、大学院進学にも及んできている実態から、受け入れ態勢の準備は、就職支援のみならず大学院支援の拡充も図る必要がある。しかし、留学生にかかる労力をどこまで使えるかは、各大学の状況によって異なる。それでも少子高齢化による入学人口の減少に伴う留学生受け入れ態勢を整えておかなければ、大学は淘汰されるであろうと述べている。ここに留学生の意識調査を分析する必要がある。

浅井（2019）は、大学院受け入れ態勢を分析しており、先輩留学生を活用した大学院進学コースの取り組みを行い、メンター制度の活用を行ったが、相談内容がメンターに移行すると進路に関する諸問題が教員の手から離れてしまい留学生の状態が全く分からなくなること。教員に相談できないこともあることなどの課題を出し、その改善策を指摘している。

## 3 アンケートの分析結果

留学を希望する学生側と受け入れる大学側の認識のギャップを把握すべく、今回の対象とした大学は、本学の提携校である、瀋陽航空航天大学と大連外国語大学である。それぞれ、2019

年 3 月 11 日と 3 月 13 日にアンケートを実施した。この両大学で行ったアンケートのデータを分析し、両大学の比較分析も試みる。実施したアンケートは最後に掲載したが、これは方ら (2016) の手法を参考にしている。

調査協力者について

瀋陽航空航天大学	参加者	50 名	本学留学説明会参加者	1 年生 2 年生
大連外国語大学	参加者	50 名	本学留学説明会参加者	1 年生 2 年生
大連大学	参加者	80 名	本学留学説明会参加者	1 年生 2 年生

ただし、大連大学では、用紙は配布したが時間の関係上のアンケートを行う時間がなかったため実施できなかった。有効回答数は、無記入のものなどを除いた結果である。

アンケートは、筆者が中国提携校に訪問し、講演会を行った際に用紙を配布し回収を行った。

すべての質問には色分けがしてある。

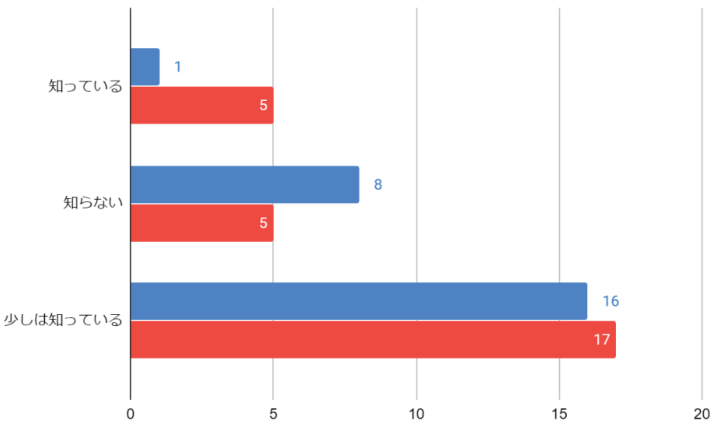
青色：瀋陽航空航天大学

赤色：大連外国語大学

1、日本の大学院の入学制度をしっていますか？

1 知っている 2 知らない 3 少しは知っている

図 1：日本の大学院の入学制度を知っていますか？

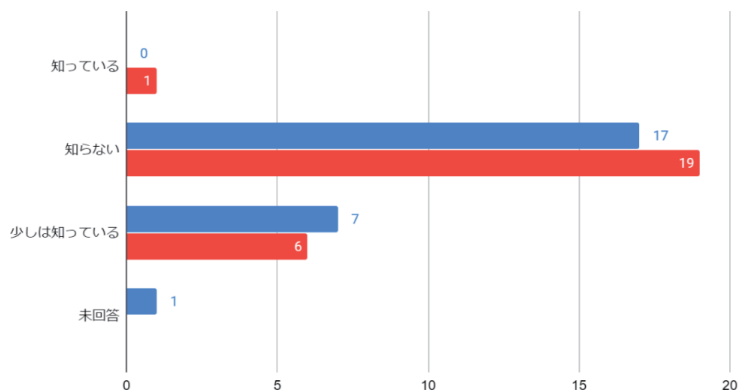


この結果から、両大学の学生は、少しは知っているようであると思われる。自分で調べたり先輩などから若干聞いていると推測できる。

2. 日本の大学院の試験問題はどのようなものか知っていますか？

1 知っている 2 知らない 3 少しは知っている

図 2：日本の大学院の試験問題はどのようなものか知っていますか？

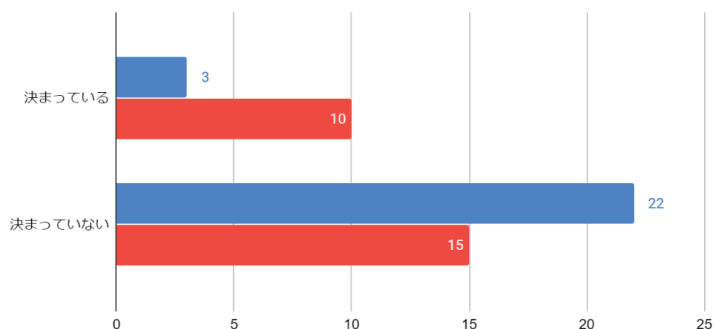


両大学ともほぼ同じ結果である。中国では、早稲田大学や明治大学・東京大学など是有名であることから大学名は知ってはいても、どのような試験制度かほとんど知らないという結果である。

3. 日本の大学院では専攻は決まっていますか？

1、決まっている 2、決まっていない

図 3：日本の大学院では専攻は決まっていますか？

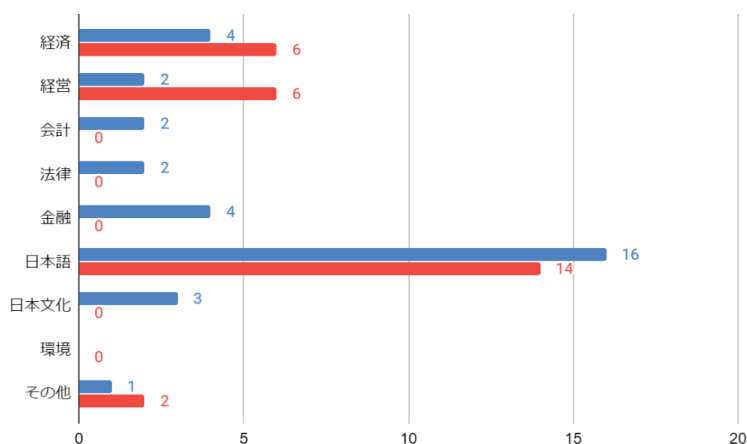


そもそも中国の学生の専門は文学部日本語学科であり、日本語が専門なので、これ以上の専門は何かということについては、漠然としか考えてないと推測できる。両大学のばらつきがあるのは、大連外国語大学には日本語学院、ソフトウェア学院、商学院がある。この大学には、日本語＋専門の制度があり、専門を 2 つ学ぶプログラム制度がある。よって、専門内容を理解しているためであると思われる。

4、専攻は何ですか？

- 1、経済 2、経営 3、会計 4、法律 5、金融 6、日本語 7 日本文化  
8、環境 9、その他（ ）

図 4：専攻は何ですか？

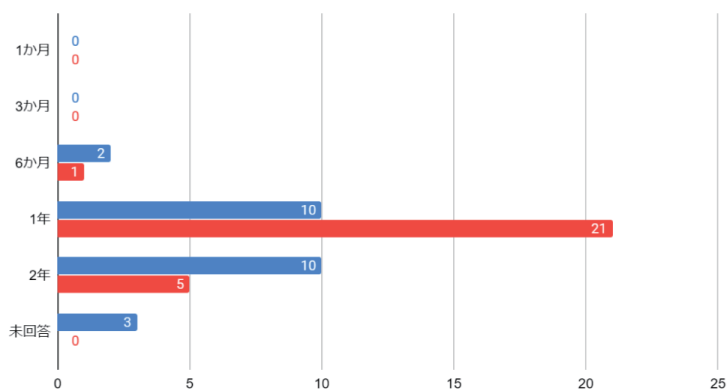


現在、中国での専門は日本語であるため結果は想定できるが、その他の専門は経済・経営などばらつきが見られる。これは、日本語＋専門課程にいる学生（日本語＋通訳日本語などの組み合わせも存在する。）2 つ目の専門の内訳である。

5、大学院に合格するためにはどのくらいの勉強が必要だと思いますか？

- 1、1 か月 2、3 か月 3、6 か月 4、1 年 5、2 年

図 5：大学院に合格するためにはどのくらいの勉強が必要だと思いますか？

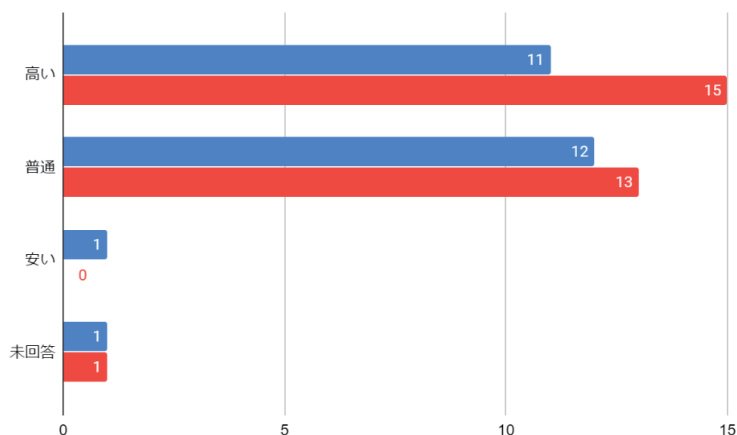


1 年と答えた学生が多い。卒業までに 2 年間なのでその中での勉強と考えた結果と推測できる。会計学のような 1 年ではとても終わらない科目を選択した結果、受験までに間に合わないという現象がゼミ生でも見受けられることから科目の特性を日本の大学側が説明する必要があると思われる。

6、大学院に払う学費は高いと感じますか？

1、高い 2、普通 3、安い

図 6：大学院に払う学費は高いと感じますか？



筆者が、留学生の入学試験において、面接試験を行った際に、学部の授業料を高いと感じている学生がほとんどであった。質問内容は大学院であるため、同じ額かそれ以上を想像しているものと推測していると思われる。実際、中国の大学はかなり安く、年間 20 万円ほどで通える大学が多い。

7、大学院に合格するためにいくらまでお金を出しても良いと考えますか？

(大学院予備校を想定し、経営学などの専門知識と研究計画書の内容を含んだセットの内容でマーチ (MARCH) (日本では上位校) レベルの大学院に合格する内容であると仮定する。)

これについては、回答が一つもなかった。記述式であったことやマーチという日本特有の呼び方を理解できないと思われる。質問としては不適切であったと考える。

8、今までの日本語の学習時間はどれくらいですか？

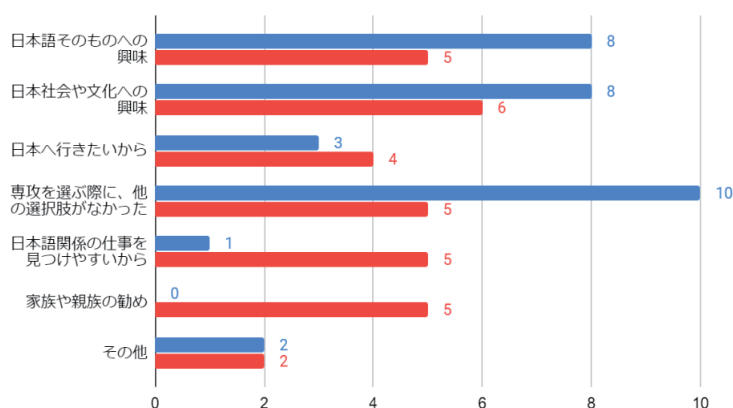
これについては、回答が一つもなかった。記述式であったことや日本語のみの学習時間となると答えにくかったように思える。質問としては不適切であったと考える。



9、日本語学習のきっかけは何ですか？

- 1、日本語への興味があったから
- 2、日本社会や日本文化への興味
- 3、日本へ行きたいから
- 4、専攻を選ぶ際に、他の選択肢がなかったから
- 5、日本語関係の仕事を見つけやすいから
- 6、家族や親族の勧め
- 7、その他( )

図 7：日本語学習のきっかけは何ですか。

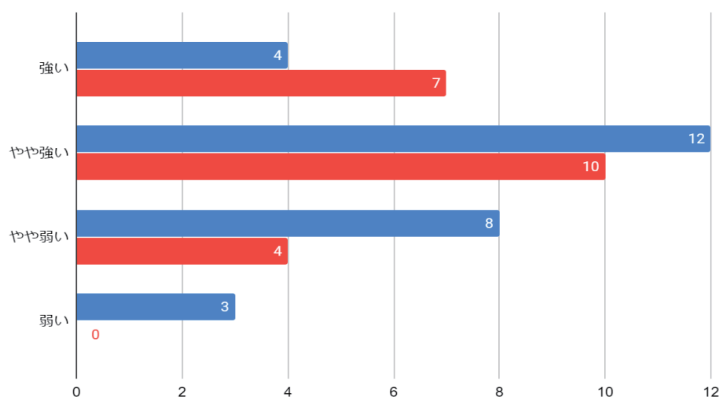


中国の全国大学統一テストは、年に一回しかなく、第 3 希望内に選択肢を用意され、その中で自動的に選ばれるため、意図せざるを得ない専門になることが多い。特に筆者がヒアリングしたゼミ生の多くは、第一希望の専門を日本語にして入学したものは、ほぼいなかった。しかし、日本語を希望選択肢に入れているため、日本語に興味があることは間違いないので、決定した専攻に対して、日本での留学において非常に熱心に勉強している様子がうかがえる。

10、日本語の勉強に対する意欲はどうですか？

1、強い 2、やや強い 3、やや弱い 4、弱い

図8：あなた自身、日本語の勉強に対する意欲はどの程度だと思います

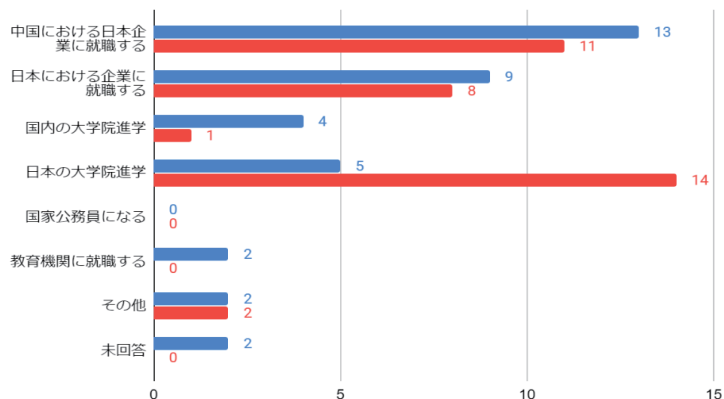


質問10の分析と同じく、専門が決定したので、意欲は高い方だと判断できる。ゼミ生の日本語能力は、1、2年次において日本語1級まで取得するものも多く、2級の取得者もかなり多い。

11、大学卒業後の予定は何ですか？（複数選択可）

- 1、中国の日系企業に就職
- 2、日本企業に就職
- 3、中国の大学院進学
- 4、日本の大学院進学
- 5、国家公務員
- 6、教育機関に就職
- 7、その他（ ）

図9：大学卒業後の予定は何ですか。

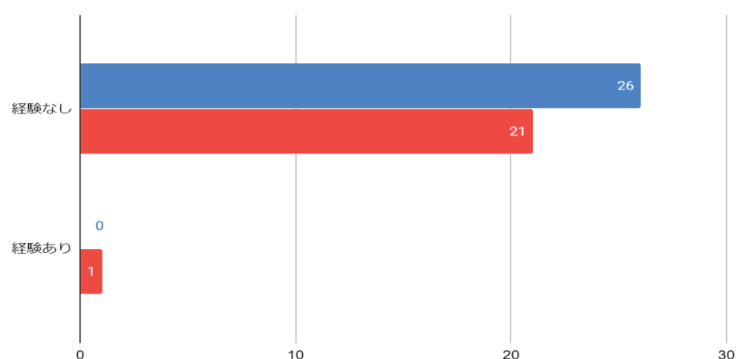


両校で差が開いた。大学院進学希望者と中国における日系企業への就職、または日本での就職を希望する傾向が強い。大連は日本との交流が深く、日系企業も多く存在するためこのような結果になったと考えられる。

12、あなたはこれまでに留学を経験したことはありますか？

1、経験なし 2、経験あり

図 10：あなたはこれまでに留学した経験がありますか。

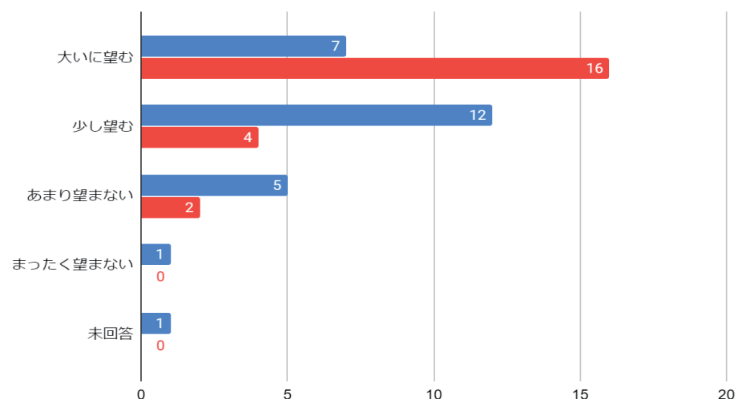


この質問の意図は、交換留学や 2 年次での短期留学、各大学への留学生別科での留学、4 年次での 1 年間留学など、様々な形の留学形態が背景にある。結果では、ほとんど留学の経験がないようであった。

13、あなたは、海外留学をどの程度望んでいますか？

1、大いに望む 2、少し望む 3、あまり望まない 4、全く望まない

図 11：あなたは、海外留学をどの程度望みますか。



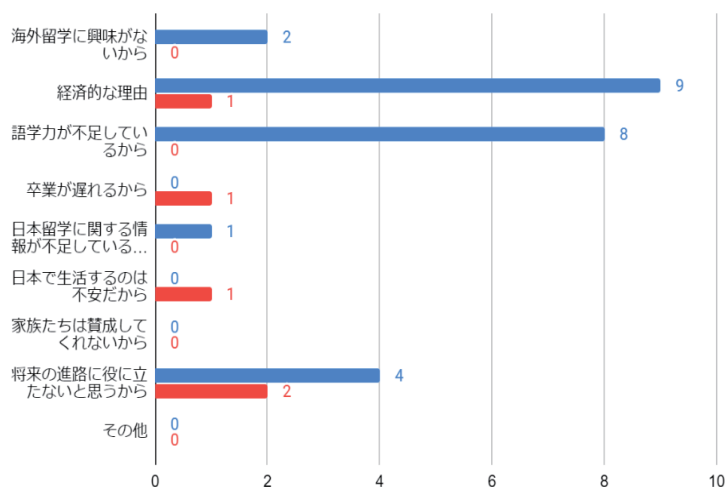
中国では、学歴社会の傾向が強いため、少しでも有利な就職に就くためには学歴を高くする必要がある。日本とは逆の傾向ではあるが、日本語を専攻したあと実際に日本文化や留学体験、その先の進学・就職に対して意識が高いと考えられる。

(14-16は日本への留学を希望しない人のみ答えてください。)

14、日本へ留学したくない理由は何ですか？

- 1、海外留学に興味がない
- 2、経済的な理由
- 3、語学力が不足しているから
- 4、卒業が遅れるから
- 5、日本留学に関する情報が不足しているから
- 6、日本での生活が不安に感じるから
- 7、家族が賛成しないから
- 8、将来の進路に役に立たないと思うから
- 9、その他（ ）

図 12：日本へ留学したくない理由は何ですか。

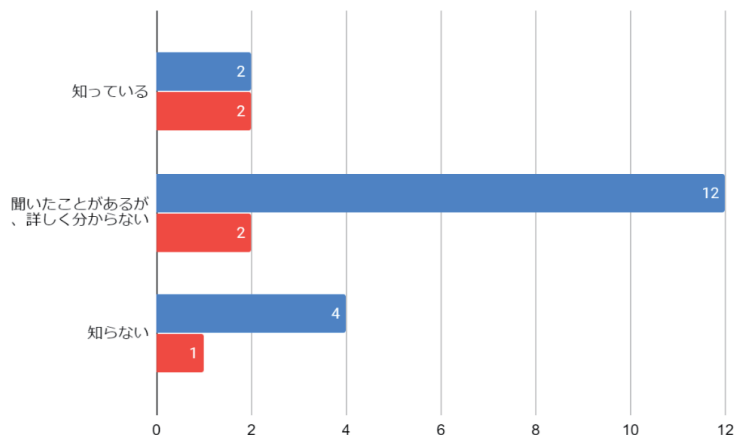


経済的理由については、日本の大学留学への費用が高く感じていると考えられる。日本に留学に後、多くの留学生はすぐにアルバイトを見つけ、勉強とともに熱心にアルバイトをしている様子を学生面談でも確認している。ただし、法律では週28時間以内の範囲である。また、語学力の不足について、説明会の時は、1年2年生である。実際に3年次から留学を考えるなら、本校では、6月11月に入学試験が行われたため、2年次の6月に入学試験があることになる。つまり、日本語を勉強し始めてから1年少しでの状態である。受け入れ側の大学がその不安を払拭するような対策を取ればこの問題は解決する。

15、大学間での協定を利用した2+2留学制度を知っていますか？

- 1、知っている 2、聞いたことはあるが詳しくは知らない  
3、知らない

図13：大学間での協定を利用した交換留学制度を知っていますか。

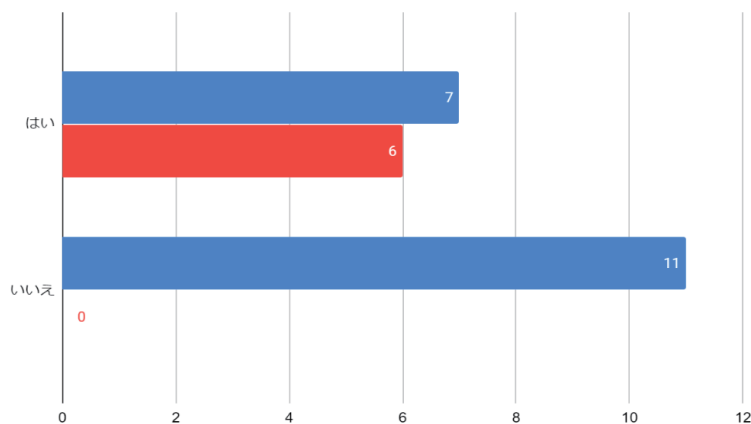


今回、筆者が行った講演会に続き、2+2 制度の紹介をしているため、学生は初めて資料を通して聴くものだと推測できる。やはり、制度についての理解がなければ、留学を行わないためこの制度の周知は大学側として当然のアピールであることは言うまでもない。

16、2+2 留学制度をよく知ったとしたら、留学へ行きますか？

- 1、はい 2、いいえ

図14：交換留学制度をよく知ったとしたら、留学へ行きますか。



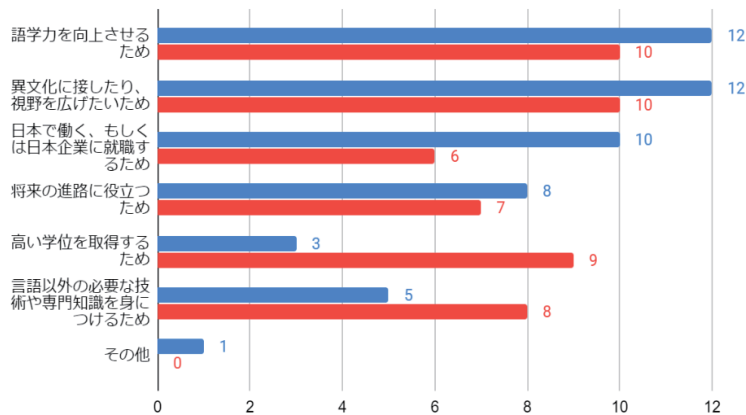
結果、半分くらいに分かれたが、興味本位で参加したものや制度を活用して留学したいという意識の学生が半分くらいの割合で存在することがわかった。

(17以降は日本の留学希望者のみ答えてください。)

17、留学の目的は何ですか？(複数回答可)

- 1、語学力の向上 2、異文化に触れたり視野を広げるため 3、日本企業への就職  
4、将来の進路に役立つため 5、高い学位の取得 6、言語以外の必要な技能や専門知識を身につけるため 7、その他( )

図 15：留学の目的は何ですか。

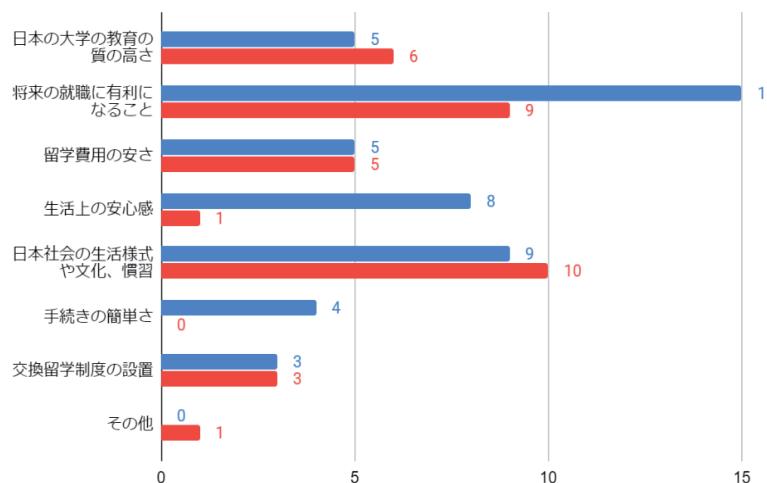


この結果から、複数回答可のため、様々な希望を持っていることが分かった。きちんとした目的のために留学を考えているので、受け入れ先もそれに対応すべく体制を構築する必要があると考える。

18、日本の留学先の魅力は何ですか？

- 1、日本の大学の質の高さ 2、将来の就職に有利になるため 3、留学費用の安さ  
4、生活上の安心感 5、日本社会の生活等式や文化・習慣 6、手続きの簡単さ  
7、交換留学制度の設置 8、その他( )

図 16：日本は留学先としての魅力は何ですか。

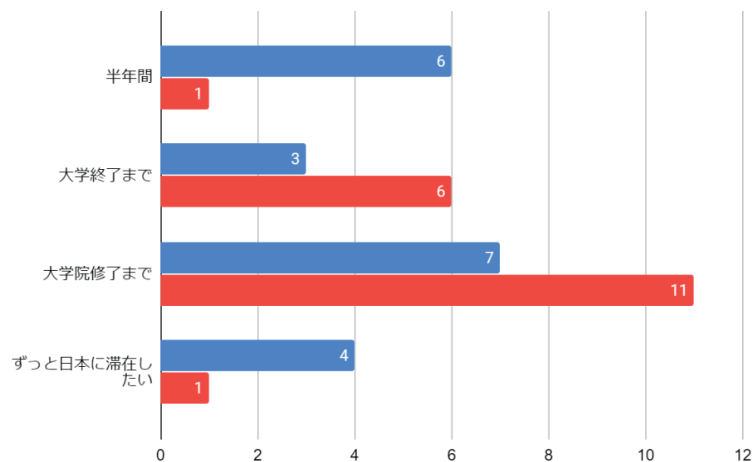


結果から、日本の文化体験に魅力を感じるものが多い。また、就職に有利になるとの結果であるが、大連という日本と歴史的になじみが多い地域や多くの日系企業が存在する地域のため、このような結果になったと推測できる。

#### 19、どのくらいの留学期間を希望しますか？

1、半年間 2、大学卒業まで 3、大学院修了まで 4、ずっと日本に滞在したい

図 17：日本へ留学しようと答えた方、どのくらいの期間滞在したいと思いますか。

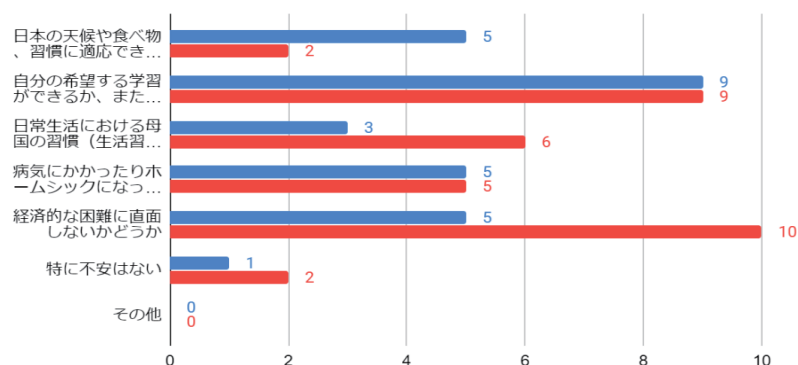


多くは、大学院修了までとの結果であった。3 年次から 2 年間の学士プログラムに加え、大学院修士課程は 2 年間のため、4 年間の留学を念頭においていると判断できる。大学院進学目的が多いということであるならば、大学側は、大学院進学に対するプログラムを拡充する必要があると考える。

20、日本に留学するにあたり、不安に感じることは何ですか？

- 1、日本の天候・食べ物・習慣に適應できるか
- 2、自分の希望する学習ができるか、また、学習の成果をあげることができるかどうか
- 3、日常生活における母国の習慣（生活様式・宗教上の習慣など）との違い
- 4、病気にかかったりホームシックになったりすること
- 5、経済的困難に直面しないか
- 6、特に不安はない
- 7、その他（ ）

図 18：日本に留学するにあたり、不安に感じることは何ですか。



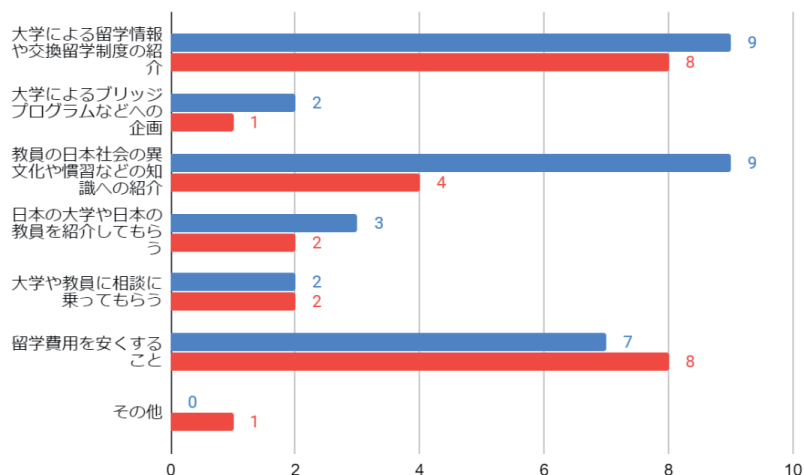
経済的困難と大学院進学が叶うのかが高い。高額な費用をかけ、大学院に合格しないリスクと、留学費用が高いため経済的に困窮した場合の不安を多く感じていると判断できる。

21、これから、日本留学に際して臨むことは何ですか？

- 1、大学による留学情報や交換留学制度の紹介
- 2、大学による様々なプログラムの規格
- 3、教員の日本社会の異文化や慣習などの知識への紹介
- 4、日本の大学や日本の教員を紹介してもらう
- 5、大学や教員に相談にのってもらう
- 6、留学費用を安くすること
- 7、その他（ ）



図 19：これから、日本留学に際しての望むことは何ですか。

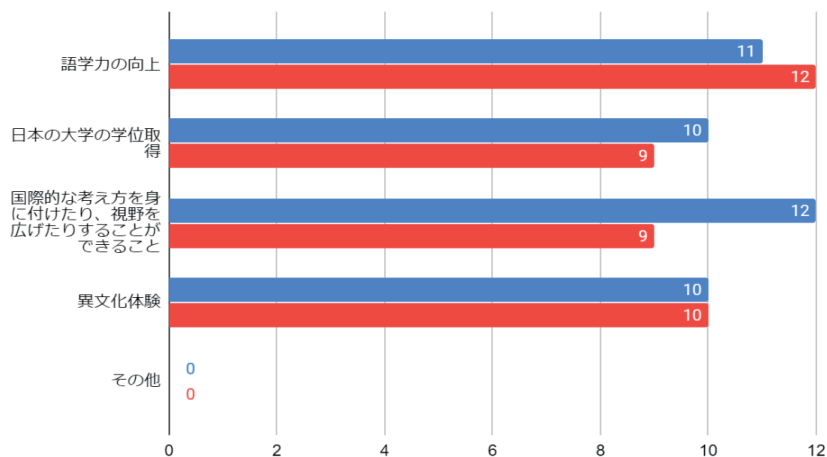


日本の受け入れ側の大学に対して、留学情報の紹介や日本文化の紹介、費用の減免措置などを希望している。留学生を受け入れるということは、大学にとって必要なことと推測できるが、留学生は、その対価に価値がないと判断すればその大学は選択されないとなると判断できる。学費の減免は経営判断であるため安くすることはすぐには期待できないが、留学情報の紹介や日本文化の紹介などは費用があまりかかるものではないものは実行できると考えられる。

## 2 2、今後、留学に際してのプラスの要因を教えてください。（複数選択可）

- 1、語学力の向上 2、日本の大学の学位取得 3、国際的な考え方を身に着けたり、視野を広げたりすることができる 4、異文化体験 5、その他（ ）

図 20：今後日本留学に際してのプラスの要因を教えてください。

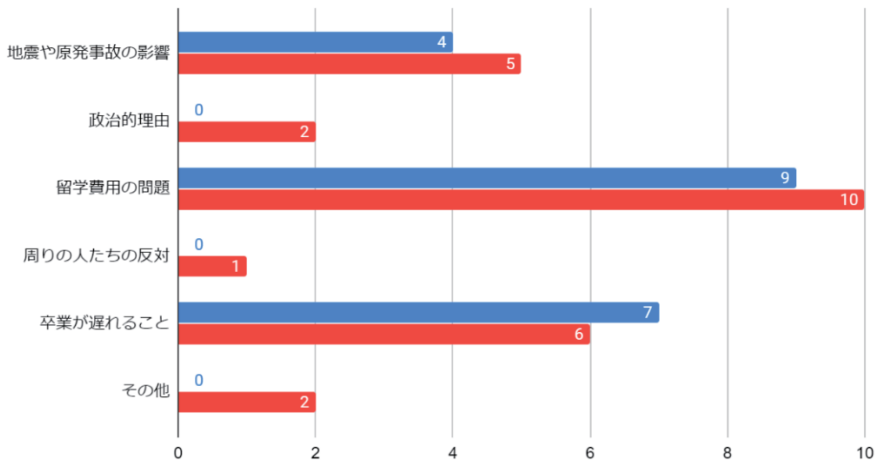


すべての選択肢を希望している結果となった。留学生がプラスに考えているものを実現できるかが留学生のニーズに答えられる提供プログラムの参考の一つであると考えられる。

23、今後日本留学に際してのマイナス要因を教えてください。（複数選択可）

- 1、地震や原発事故の影響 2、政治的理由 3、留学費用の問題 4、周りの人たちの反対  
5、卒業が遅れること 6、その他（ ）

図 21：今後日本留学に際してのマイナスの要因を教えてください。



留学費用の問題が多い。前の質問で分析したとおりである。また地震や原発といった日本特有の環境も留学生にとっては不安材料である。卒業が遅れることについてはよく理解していなければならない。中国では、日本と入学と卒業が半年ずれているため、日本の3年次に留学するのは、中国で2年次が終わってから半年後の4月である。よって、ダブルディグリー制度を利用するならば、日本の単位を変換し中国の大学の卒業要件に該当することが多い。しかし、大学を調査すると、南京大学金陵学院などは、日本での4年次の4月に卒業論文を提出し口頭試問を受け、5月には卒業してしまう。よって、ダブルディグリーとはいえ、中国の大学を普通に卒業できる大学も存在する。西安外国語大学では、日本の卒業資格を持って卒業する。さらに、卒業論文に対して、日本のゼミ担当者が10枚以上の報告書を作成する必要がある。報告書は、何月何日にどのような指導をしたか、発表の内容、副査の質問、それについての答弁の記録を大学に提出し、中国教育省に提出し、認められれば卒業となる。よって、半年卒業が遅れる。

## 4 考察

以上、両大学にアンケートを実施し、答えに対する分析を行った。ここから浮き彫りになる課題をまとめる。

今回、対象にした 2 校は、瀋陽と大連であるため、アンケートの結果で差が明らかになった箇所がある。ただし、その差は、留学に対する質問の本質とはさほどずれていなく、両校の結果には共通する課題が発見できる。まずは、学費の問題である。学費を高いと感じている学生がほとんどである。本校でも、留学生に対し、奨学金制度などを充実させているが、当然、全員には行き当たらない。全員申請できるものとしては、申請すれば本校学費の半額の減免措置ができるものがある。一般の入試形態での学費年額 128 万円（各学年によって異なる）となる。ところ、仕送り 10 万円未満等の要件で年額 64 万円になる。全員が申請をするため授業料の半額で 2 年間学習できる。しかし、学生はその半額の学費でも高いと感じている。その上、留学に来る以上、安心で、勉学の効果があり、大学院進学や就職支援を期待していることから、受け入れる大学側は、そのニーズにどこまで対応できるかが課題となる。受け入れ大学は、限られた人数でどこまで留学生のニーズを満たし、付加価値を付けられるかが課題であり、日本人学生とのバランスの問題も考えると、留学生のみ手厚い待遇を与えるわけにはいかない。その判断は各大学の判断になる。

卒業年次の遅れについて、中国での年度開始は、日本と半年ずれており、9 月入学のため、北陸大学に 4 月入学となる。そのために半年間の空白が生じる。その期間を有効活用し、留学生別科に半年早く入学するものが多い。日本語に不慣れな学生は、半年間留学生別科で日本語を学び、半年後の 4 月に本学部に入學するというを本校で推奨している。空白期間を設けないよう、またスムーズに学部に移行できるよう運営を行っている。その制度を活用した学生は、2020 年度では約 50 名存在しており、日本の文化、日本語、生活習慣などを半年で身に着けている。

大学院進学希望者に対して、留学生の入試段階（中国にいる 2 年生）で、大学院進学を希望しているものの、その厳しさゆえ 4 年次に諦め、日本での就職や帰国を選択する留学生も多くいる。希望の大学院合格のため、大学のサポートが必要である。合格実績から次年度の入学生を確保できるというスパイラルに繋がるため合格実績が必要なことは言うまでもない。筆者が中国提携校に訪問した際には、前日にある大学の説明会が行われており、入った教室の黒板を消していなかったためこの大学が説明会に来たのか把握できた。留学生争奪戦が行われていると感じた。提携校である以上、後輩が留学対象者となる。SNS 等の発達により、そのまま大学の状態が筒抜けになる。現在、本校で行っている内情やプログラムなどの実態が、次年度の留学生入学に結びついているということが本校の状況である。

## おわりに

今後の日本の大学経営を考えると留学生の入学は必要に迫っている。そのなかで、東京富士大学は、留学生を大量に入学させ、管理の不十分さを露呈し問題になった事件は記憶に新しい。大量に留学させたものの管理やプログラムなどの受け入れ態勢が不十分であったと推測する。一番には、経済的困窮に陥り、アルバイトばかりに時間を取られ、学習を継続できない状況に陥り、単位を取得できず、進学希望も諦め、双方にとって良い結果とはならなかった。

本校の管理方法や提携校との適切な関係を築ければ、そのリスクは十分に回避することができる。しかし、本学でも見られたような課題も存在する。今回、留学を考えている段階での留学生のニーズを分析できた。その

一つ一つに対してゆっくりと解決しながら長い友好関係を崩さぬよう改善することで大学運営の一つの形としての在り方を提示できるものと確信する。改善を行いながら今後ともこの活動を続けていきたい。

#### 参考文献

- ・浅井尚子 「大学院進学希望者の受験準備の現状と課題」 拓殖大学日本語教育研究 第 3 号 2018 年.
- ・浅井尚子 「先輩留学生を活用した大学院進学コースの取り組みと課題」 拓殖大学日本語教育研究 第 4 号 2019 年.
- ・稲井富赴代 「中国人留学生に対するキャリア教育と就職支援—日本企業に就職した元留学生に対するアンケート調査をもとに—」 高松大学研究紀要第 56・57 合併号 2012 年.
- ・小倉祥子・安立奈歩・加藤容子 「四年制大学進学女性のライフコース分析 (1) —職業・子育て・結婚の価値観尺度の開発—」 椋山女学園大学研究論集 第 42 号 社会科学編 2011 年.
- ・小倉祥子・安立奈歩・加藤容子 「四年制大学進学女性のライフコース分析 (2) —卒業生アンケート調査の主計結果—」 椋山女学園大学研究論集 第 43 号 社会科学編 2012 年.
- ・杉田陽出 「大阪商業大学における異文化コミュニケーション教育の取り組み—平成 24 年度前期の授業から—」 大阪商業大学論集 第 8 巻第 4 号 (通号 168 号) 2013 年.
- ・杉田陽出 「大阪商業大学における異文化コミュニケーション教育の取り組み—平成 24 年度後期の授業から—」 大阪商業大学論集 第 9 巻第 2 号 (通号 170 号) 2013 年.
- ・寺倉憲一 「我が国における中国人留学生受け入れと中国の留学生政策」 総合調査報告書 2011 年.
- ・藤永 博 「大学院留学生のためのアカデミック・ライティング教育について - 教育内容・方法の「形式知化」および「動態化」の必要性 - 」 和歌山大学経済学会研究年報第 15 号 2011 年.
- ・方萍・松岡知津子・福岡昌子 「日本語を学習する中国大学生に対する日本留学への意識調査—南京工業大学を対象に—」 三重大学国際交流センター紀要 2016 第 11 号 (通巻 18 号) 2016 年.

別添：アンケート資料

北陸大学と中国提携校の留学希望者に対する日本留学への意識調査

アンケート協力をお願い

このアンケートは、北陸大学の教員森田の研究にのみ使用するものであり、その他に使用することは致しません。ぜひご協力をお願いいたします。匿名ですので思ったことを記入してください。

- をつけてください    男   女  
○をつけてください    1年生   2年生   3年生   4年生   その他  
○をつけてください    日本語学習歴   半年   1年   1年半   2年   2年半   それ以上  
○をつけてください    N1取得   N2取得   N3取得   N4取得   未取得

大学院に進学希望者にたいして

- 1、日本の大学院の入学制度をしっていますか？  
1 知っている   2 知らない   3 少しは知っている
- 2、日本の大学院の試験問題はどのようなものか知っていますか？  
1 知っている   2 知らない   3 少しは知っている
- 3、日本の大学院では専攻は決まっていますか？  
1、決まっている   2、決まっていない
- 4、専攻は何ですか？  
1、経済   2、経営   3、会計   4、法律   5、金融   6、日本語   7 日本文化  
8、環境   9、その他（            ）
- 5、大学院に合格するためにはどのくらいの勉強が必要だとおもいますか？  
1、1か月   2、3か月   3、6か月   4、1年   5、2年

6、大学院に払う学費は高いと感じますか？

- 1、高い 2、普通 3、安い

7 大学院に合格するためにいくらまでお金を出しても良いと考えますか？

(大学院予備校を想定し、経営学などの専門知識と研究計画書の内容を含んだセットの内容でマーチ (MARCH) (日本では上位校) レベルの大学院に合格する内容であると仮定する)

8、今までの日本語の学習時間はどれくらいですか？

9、日本語学習のきっかけは何ですか？

- 1、日本語への興味があったから  
2、日本社会や日本文化への興味  
3、日本へ行きたいから  
4、専攻を選ぶ際に、他の選択肢がなかったから  
5、日本語関係の仕事を見つけやすいから  
6、家族や親族の勧め  
7、その他( )

10、日本語の勉強に対する意欲はどうですか？

- 1、強い 2、やや強い 3、やや弱い 4、弱い

11、大学卒業後の予定は何ですか？(複数選択可)

- 1、中国の日系企業に就職  
2、日本企業に就職  
3、中国の大学院進学  
4、日本の大学院進学  
5、国家公務員  
6、教育機関に就職  
7、その他 ( )

12、あなたはこれまでに留学を経験したことはありますか？

- 1、経験なし 2、経験あり

13、あなたは、海外留学をどの程度望んでいますか？

- 1、大いに望む 2、少し望む 3、あまり望まない 4、全く望まない

(14-16は日本への留学を希望しない人のみ答えてください。)

14、日本へ留学したくない理由は何ですか？

- 1、海外留学に興味がない
- 2、経済的な理由
- 3、語学力が不足しているから
- 4、卒業が遅れるから
- 5、日本留学に関する情報が不足しているから
- 6、日本での生活が不安に感じるから
- 7、家族が賛成しないから
- 8、将来の進路に役に立たないと思うから
- 9、その他 ( )

15、大学間での協定を利用した2+2留学制度を知っていますか？

- 1、知っている
- 2、聞いたことはあるが詳しくは知らない
- 3、知らない

16、2+2留学制度をよく知ったとしたら、留学へ行きますか？

- 1、はい
- 2、いいえ

(17以降は日本の留学希望者のみ答えてください。)

17、留学の目的は何ですか？(複数回答可)

- 1、語学力の向上
- 2、異文化に接触したり視野を広げるため
- 3、日本企業への就職
- 4、将来の進路に役立つため
- 5、高い学位の取得
- 6、言語以外の必要な技能や専門知識を身につけるため
- 7、その他 ( )

18、日本の留学先の魅力は何ですか？

- 1、日本の大学の質の高さ
- 2、将来の就職に有利になるため
- 3、留学費用の安さ
- 4、生活上の安心感
- 5、日本社会の生活等式や文化・習慣
- 6、手続きの簡単さ
- 7、交換留学制度の設置
- 8、その他 ( )

19、どのくらいの留学期間を希望しますか？

- 1、半年間
- 2、大学卒業まで
- 3、大学院修了まで
- 4、ずっと日本に滞在したい

20、日本に留学するにあたり、不安に感じることは何ですか？

- 1、日本の天候・食べ物・習慣に適應できるか
- 2、自分の希望する学習ができるか、また、学習の成果をあげることができるかどうか
- 3、日常生活における母国の習慣（生活様式・宗教上の習慣など）との違い
- 4、病気にかかったりホームシックになったりすること
- 5、経済的困難に直面しないか
- 6、特に不安はない
- 7、その他（        ）

21、これから、日本留学に際して臨むことは何ですか？

- 1、大学による留学情報や交換留学制度の紹介
- 2、大学による様々なプログラムの規格
- 3、教員の日本社会の異文化や慣習などの知識への紹介
- 4、日本の大学や日本の教員を紹介してもらう
- 5、大学や教員に相談にのってもらう
- 6、留学費用を安くすること
- 7、その他（        ）

22、今後、本留学に際してのプラスの要因を教えてください。（複数選択可）

- 1、語学力の向上    2、日本の大学の学位取得    3、国際的な考え方を身に着けたり、視野を広げたりすることができる    4、異文化体験    5、その他（        ）

23、今後日本留学に際してのマイナス要因を教えてください。（複数選択可）

- 1、地震や原発事故の影響    2、政治的理由    3、留学費用の問題
- 4、周りの人たちの反対    5、卒業が遅れること    6、その他（        ）

ご協力ありがとうございました。



